



HIGASHI OSAKA MIDORI R.C

CLUB WEEKLY

国際ロータリー第2660地区
東大阪みどりロータリークラブ

創 立 1998年9月24日
会 長 井上 善博
幹 事 山村 忠弘
会報委員長 阪田 克英

2024-12-05 (第1092回)

今週のプログラム

《12月05日(木) 例会 KKRホテル5階「瑞宝」》

◎ 卓 話 「クラブフォーラム」

井上善博君

♪本日の歌 「君が代」「四つのテスト」

次回の予定

《12月12日(木) 例会 KKRホテル5階「瑞宝」》

◎ 卓 話 「未 定」

政岡政広君

前回の出席率

《11月28日(木) 例会》

会員数17名 (内 適用出席免除者数3名)

本日の出席者数6名 (内 出席した適用出席免除者数0名)

本日の出席率 42.9%

《10月24日(木) 例会》

会員数17名 (内 適用出席免除者数3名)

例会出席者数4名 (内 出席した適用出席免除者数0名)

メークアップ3名 例会修正出席率 50%

幹事報告

幹事 山村忠弘君

◎本日例会後、定例理事会を行います。

◎12月22日(日)、クリスマス家族会がKKR2階「白鳥」の間にて行われます。ご参加下さい。

◎繰り返しになりますが、米山特別寄付・財団年次寄付のご協力をお願い致します。米山・財団共に目標額は3万円となっています。

会長の時間 (11/28)

会長 井上善博君

皆さんこんばんは。

11月の月末になりまして、今日はかなり冷えてきました。皆様風邪などひかないように気を付けてください。

本日のお客様は、阪田さんの従兄であります木村邦俊様がお越しになっています。この後、「古文書への誘い(いざない)」と言うテーマで卓話の方宜しくお願い致します。

先日の25日に元米山奨学生のリンちゃんと僕とカウンセラーだった村上さん、事務局の野原さんと4人でシェラトンにて食事をしました。近況報告を聞いてますと社長の右腕となりながら、営業、通訳、秘書という5年前の奨学生の頃とは違って逞しい女性となっていました。また大阪に仕事がある時には是非例会にも参加したいとのことでした。先日はルシアーノ君夫婦が政岡さんと一緒に例会に来てくれたり、奨学生を終えてからも連絡をくれたり例会に顔を出してくれるのは嬉しいことです。

例会場：KKRホテル大阪 Tel：06-6941-1122 例会日時：毎週木曜日 午後6時30分

事務所：〒631-0001 奈良市北登美ヶ丘3-11-30

Tel：0742-55-4869 Fax：0742-51-1067 E-mail midorirc1126@gmail.com



また来年4月からの米山奨学生受け入れについても希望すると地区へ返事を致しました。

また決まりましたらクラブで歓迎してあげたいと思います。



卓話抄録 (11/28)

「古文書解読への誘い(いざない)」

木村邦俊様

(担当：阪田克英君)

『河内屋可正旧記』

○河内屋可正 (壺井五兵衛)

1636年(寛永13) — 1713年(正徳3)

○江戸前期～中期の民衆記録

19冊あったと考えられるが、第1・2・3・11が散逸、15冊が残されている。河内屋は河内国石川郡

大ヶ塚村の(河南町大ヶ塚)の豪農で、代々庄屋年寄を務めるとともに、酒屋、油屋なども営む地主家。この書は、可正が隠居した元禄・宝永年間に、子孫への教訓として自らの体験や見聞を書き連ねたもの。当時の上層農民の生活実態や文化活動、さらにはその思想について何うことの好資料である。 日本歴史大辞典より

○『河内屋可正旧記』一近世庶民資料』

(1955年 野村 豊、由井喜太郎 清文堂出版)

○『影印 河内屋可正旧記』

(2015～18年 山中浩之 大阪大谷大学博物館 報告書)

○重要文化財指定 2020年(令和2)9月30日

〈河内屋可正関係資料 文化遺産オンライン〉より河内屋可正(本名壺井五兵衛、1636年～1713年)は、河内国石川郡大ヶ塚(だいがつか)(現大阪府南河内郡河南町大ヶ塚)の上層農民で、農業と酒造業を営む傍ら、読書に励み、謡や能、俳諧・和歌などに親しんだ。本資料は、可正自筆の記録六点を中心とする九点の史料である。

可正は、家の没落を防ぎ、心を正しくもつ拠り所として、自身の見聞や処世訓などから大ヶ塚の由来や家々の興亡を「[河内屋可正旧記]」五冊に書き記した。各冊とも半紙を料紙とする横帳を複数冊合綴したもので、丁寧な筆記態度が看取され清書本とみられる。その内容には江戸時代前期に出版された『太平記評判秘伝理尽鈔』など『太平記』の講釈書、仮名草子の『堪忍記』(浅井了意著、万治二年(一六五九)刊行)などの影響が看取される。楠木正成が理想的な統治者であると述べて幾度も言及する点や、



大ケ塚における歴史の叙述にあたり事実を述べた後に「評に云」と記して自身の考えを記す叙述形式は『太平記』の講釈書と類似する。他方、「〔河内屋可正旧記〕」の執筆と同時並行で、可正が見聞したり、読書によって得た知見や自身の考えを当座の覚として書き残した記録が「〔可正雑記〕」一冊である。折紙綴葉装の冊子で、半紙や杉原紙などを料紙とするが反故紙を利用する丁も多くみられる。和歌など文芸に係る記述が充実する点に特色がある。以上、可正の記録六点は、通俗道徳的な民衆思想が形成される過程を窺わせ、一定の蔵書を有し、読書体験によって教養を高め、書物を残すまでになった村落の知識人のありようを伝える。



この他、可正の子や孫が記した「〔河内屋年代記〕」二冊がある。特に可正の子清左衛門（可晴）や孫の小三郎を中心に書き記した一冊は二三七丁と大部である。この記録は、可晴が自らの家や大ケ塚の歴史を記し、享保十年（一七二五）十月に小三郎に引き継いだことが知られ、可正の考え方がある程度子や孫に継承されていることが窺える。「壺井家系図」一卷は、壺井家や大ケ塚の歴史を考えるうえで参考となり、可正が「大ケ塚来由記」（「〔河内屋可正旧記〕」）・「可正手記」（「〔可正雑記〕」）を、可

晴が「年代記」（「〔河内屋年代記〕」）を著したと記す。

本資料は、商業出版が確立した江戸時代前期から中期における上層農民の生活意識、文化受容、ひいては村落における知のありようを窺うことができる稀有な記録である。同時期に上層農民が個人で著した記録としては群を抜いて豊富な内容を有するもので、同時代の文化史、思想史等の研究上に価値が高い。



ニコニコ箱の報告

例会担当委員会

(11/28) 合計 11,000 円 今年度累計 215,500 円

寄付のお願い

当クラブは全員で目標額を行うことを年度計画としています。

ご協力宜しくお願い致します。

米山/財団 共に各 3 万円

* 出来る限り年内にお願い致します。

Unite!Overcome!&Enjoy!

2024-25年度 東大阪みどりRCテーマ



ロータリーのマジック

2024-25年度 国際ロータリーテーマ